

Chapter

02

STUDY PLAN-14V
入学生

01.カリキュラムの概要	021
02.履修申請	022
03.成績表の見方	027
04.卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	028
05.卒業研究	031
06.卒業見込証明書	031
07.資格取得	032
08.カリキュラム	035

01. カリキュラムの概要

新入生の皆さん、生活環境学科へようこそ。

この「カリキュラム」という言葉、新入生の皆さんはあまり聞いたことがないかもしれません。大学4年間の学習のプログラム、あるいは授業のメニューとでもいったら少しわかりやすくなるでしょうか。ここでは、その概要を中心に、修学の大要、注意点も含めて簡単な説明をします。

皆さんは、これからの4年間に合計124単位を修得して「人間環境学士」の学位を得ることになります。124単位のうち8単位は総仕上げの「卒業研究1・2」で、残り116単位が一般的な講義や演習の科目です。

まず、卒業研究を除いて116単位を修得しなくてはならないカリキュラムの概要を説明しましょう。

生活環境学科のカリキュラムは、3つのグループに大きく分かれます。基本科目、展開科目、そして実践科目です。

最初の基本科目には、環境分野の基礎および現代の社会人として必要な基本的知識を学ぶ科目群があり、おもに2回生までに履修します。この中には必修（＝必ず修得しなければならない）科目である「生活環境学概論」やコミュニケーション英語、言語文化、現代社会と文化、身体基礎科学などの科目群があります。1回生では後で説明する実践科目も含めて必修の指定がある科目が多いため、受講する科目を履修申請する際には注意が必要です。

2回生以降に学ぶ展開科目には、環境分野の様々な学問領域をカバーする3つの科目群（社会環境、環境計画、環境保全）と学部共通科目があり、これらの履修を通じて専門的な知識を身につけます。多数の科目があつてどの授業を受けたら良いのか少し迷うかもしれませんが、関心がある特定の分野を体系的に集中して学習するもよし、幅広く全体を学ぶのもよし、ほぼ自由に履修することが出来ます。

最後の実践科目は、基礎スキル演習、身近な環境問題を实地に体験しながら考えるフィールド/スタジオ演習、現代人として必須のスキルとなったコンピュータ演習、そしてプレ卒研、卒業研究などからなります。実践科目の中にはゼミナールおよび生活環境学演習という科目群もありますが、これらは特定の分野に関して専門性を高めることを目的としており、いずれも少人数のクラスで実施します。

各科目で学ぶ内容は、産大ホームページのWebシラバス（トップページ→在学生の皆様へ→関連リンク→Webシラバス）で確認することができますから、ぜひ好奇心を持ってのぞいてみてください。

つぎに、それぞれの科目の履修方法について簡単に説明します。これは全学共通ですが、大学では学びたい科目を“履修申請”によって登録する必要があります。また、生活環境学科の場合、1年間に履修できる単位数は44単位（4回生を除く）までという上限（履修制限）が定められています。この上限まで単位を修得できれば、計算上3回生修了時まで、卒業研究を除いて卒業に必要な単位をカバーすることが出来ます。また、カリキュラムの概要でも少しふれましたが、カリキュラムに並んでいる科目の中にはいくつか“必修”に指定されているものがあり、必修科目は必ず単位を修得する必要があるため、履修申請時および成績評価に十分注意してください。必修科目の単位が取れないと、次年度以降に再履修しなくてはならず、とても大変です。3回生の夏頃から本格化する就職活動や、大学での学習の総仕上げ＝卒業研究を充実させるためには、最初の3年間に卒業研究を除くすべての単位を修得することを強く勧めます。

生活環境学科では、皆さん一人一人について修学アドバイザーになる教員を決めています。大学での学習についての疑問があれば、この修学アドバイザーまたは学科の教務委員まで遠慮無く相談してください。

ここでは、生活環境学科のカリキュラムと履修方法を簡単に説明しました。詳細は次ページ以降に詳しく説明されていますから、良く読んで、内容を十分に飲み込んでください。「修得単位数の勘違い」留年を招かないよう、よろしくお願いします。

02. 履修申請

- ・「履修申請」とは、自分が受けたい授業科目を申込みことです。
- ・「履修申請」は、本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、P26（4）履修制限等をよく読んで上で、自分の時間割の計画を立てて申請してください。
- ・大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択できるようになっています。
- ・申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。
- ・申請の手順については別に配布するWeb履修申請ガイドブックをご覧ください。

（1）履修計画における注意点

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス」（授業計画）をよく読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受けたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。
- ③同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。各コースの履修要件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
- ④卒業資格最低単位数（卒業要件単位数）を充足できるよう重点をおいてください。
- ⑤申請する前に、学籍番号などによって指定されているクラス等を確認してください。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。
- ⑦既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

その他の注意事項

■教職関連科目に係わる授業科目について、以下の通り卒業要件単位に算入します。

「教育哲学」	}	基本科目区分の「現代社会と文化」科目として
「教育心理学」		
「道徳教育の理論と方法」		
「人権教育」		
「生涯学習論」		展開科目区分の学部共通科目分野のキャリア教育
（※上記科目は各セメで履修できる制限単位には含みません）		

- ・資格取得に必要な授業科目については、カリキュラム表を参照してください。

(2) 手続方法

① 履修計画を立てる

配付資料に基づき履修計画を立て、Web履修申請ガイドブック巻末にある「履修申請下書き用紙」に記入します。また、履修したい講義がクラス登録科目である場合には、同じく巻末にある「クラス登録応募下書き用紙」に記入します。講義科目の中には、学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの、抽選により履修者を決定するもの、プレースメントテストの結果により履修指示が為されるもの等、さまざまなタイプがあります。これらの情報は、講義時間割の備考欄等に記載されています。

② 登録手続き（3つの期間（順序）に分けて行う）

a. クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果、当選した場合に限り履修することができます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は、巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

b. 本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を登録してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）同時に、抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内なら何度でも登録内容を変更することができます。登録が完了したら内容を印刷し、保管しておいてください。

c. 修正

登録した講義を修正（追加、削除）することができます。但し、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず登録内容を印刷してください。

【クラス登録の要領について】

- ・講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印がある講義の履修を希望する場合は、本申請に先立ちクラス登録が必要です。
- ・クラス登録は、応募受付⇒抽選⇒発表（本申請時には、当選した科目が画面に自動表示されています。）の順で行われます。
- ・当選した講義はキャンセルすることができません。また、はずれた方は、本申請期間または修正期間に残席がある場合に限り先着順で登録できます。

③その他の注意事項

■コミュニケーション英語科目、ドイツ語科目の単位認定について

＜受講時の注意＞:単位認定には、以下の2つの方法があります。

- ①出欠席を厳しくとります。英語の場合、1 Semesterで特別な理由なく4回欠席した者には単位を与えません。また、30分以上の遅刻は出席とみなしません。
- ②英語・ドイツ語は、次の資格を取得した者に、コミュニケーション英語科目あるいはドイツ語科目の所定の単位を認定します。

有する資格	認定科目	備考
英検2級又はTOEIC500点以上	コミュニケーション英語1・2	これ以外の資格は対象としません。
英検準1級又はTOEIC530点以上	コミュニケーション英語1・2・3・4	
ドイツ語検定4級	ドイツ語1	
ドイツ語検定3級	ドイツ語1・2・3	

1)単位認定の申請方法

履修申請をした上で各資格認定書の原本コピーを担当教員に提出してください。

2)評価の方法

「S」評価を与えます。

■「スポーツ科学実習」について

＜受講時の注意＞

- ・出欠席を厳しくとります。1 Semester3回までの欠席は認めますが、4回以上欠席した者は不合格となり単位は認定されません。
 - ・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
 - ・運動服には、白い布に学籍番号と氏名を書いて左腕と右尻に縫い付けてください。
 - ・体育館内のコースを受講する学生は、運動靴に赤線を入れて室内専用に使ってください。
 - ・テニスコースを受講する学生は、テニスシューズを使用してください。
 - ・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を使用し、授業時間ごとに借り出し、授業終了後ただちに返却してください。
- ※本科目の受講の指示は掲示で行いますから、体育館の掲示板を見るよう心掛けてください。

(3) 自由科目

他学部（自分の所属する学部以外）および他学科（自分の所属する学科以外）の専門教育科目（人間環境学部は展開科目）を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち8単位までを、展開科目「学部共通科目」の卒業要件単位として算入することができます。編入生は、単位を修得した自由科目のうち、4単位までを展開科目「学部共通科目」の卒業要件単位として算入することができます。（これを「自由科目」と称します。）ただし、履修の認められない科目がありますので、下表で確認してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスをよく読んで選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる（表示されている）科目から選択してください。

生活環境学科

他学部	他学科	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
——	文化コミュニケーション、 スポーツ健康	8単位 (編入生は 4単位)	各学科の事情等により除外する 科目
経営	経営、商		
経済	経済、国際経済		
デザイン工	情報システム、建築・環境デザイン		
工	機械工、交通機械工、都市創造 工、電子情報通信工		

(4) 履修制限

生活環境学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

14V学生に適用

各セメで履修できる単位数		1～6セメ	最大22単位/セメ(教職を除く):年間44単位
		7～8セメ	最大25単位/セメ(教職を除く):年間50単位
学年(セメスター)による科目の制限		1セメ:1セメ配当科目から履修することができます。 2セメ:1～2セメ配当科目から履修することができます。 3セメ:1～3セメ配当科目から履修することができます。 4セメ:1～4セメ配当科目から履修することができます。 5セメ:1～5セメ配当科目から履修することができます。 6セメ:1～6セメ配当科目から履修することができます。 7セメ:1～7セメ配当科目から履修することができます。 8セメ:すべての科目から履修することができます。 ※ただし、前・後期によって開講していない科目、制限のある科目は履修することができません。	
基本科目	コミュニケーション 英語分野 言語文化分野	■「コミュニケーション英語1～2」【4単位】を必修とします。 ○留学生は選択科目とし、履修しなくてもかまいません。 選択する場合は母語を履修することができません。	
	日本事情分野 日本語分野	■留学生以外は履修することができません。 ○留学生は、「日本事情1～3」【6単位】、「日本語1～4」【4単位】、「上級日本語1～4」【4単位】を必修科目とします。	
実践科目	卒業研究分野	■「卒業研究1」は、一定の条件を満たさないと履修することができません。 ■「卒業研究1」を修得しないと「卒業研究2」を履修することができません。(P31の05 卒業研究参照)	
資格支援科目		■教職関連科目に係わる授業科目について、以下の通り卒業要件単位に算入します。 「教育哲学」 「教育心理学」 「道徳教育の理論と方法」 「人権教育」 「生涯学習論」 (※上記科目は各セメで履修できる制限単位には含みません) } 基本科目区分の現代社会と文化分野 展開科目区分の学部共通科目分野のキャリア教育	
その他		既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。	

※未開講科目については、掲示またはポータルシステムで案内します。

03. 成績表の見方

- ・発表される「成績表」は、当該年度の前期末、または学年末までの成績です。
- ・単位左側の文字の「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目、「選」は選択科目を表わします。
- ・成績欄右寄りの評価は「今年度の成績」、中央の評価は「昨年度までの成績」を表わします。
- ・評価・認定は、「S」「A」「B」「C」「D」「T」で判定します。

修得単位数欄

卒業要件単位数	卒業に必要な単位数
修得卒業要件単位数	現在修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得総単位数	現在修得している全ての単位数

進級・卒業判定欄

1セメ・2セメ	3セメ・4セメ	5セメ・6セメ	7セメ・8セメ	卒業
1年	2年	3年	4年	卒業できる

来年度欄(6セメ以上)

卒見証発行	有	無		
	卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可		
卒研資格	有	無	済	
	卒業研究履修資格有	卒業研究履修資格無	卒業研究修得済	

- ・卒業研究履修資格欄(6セメ以上)

学年末に発表する成績表には、次年度の「卒業研究」履修の可否が表示されます。

04. 卒業要件単位数 (外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間 (編入生は2年間) 以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年 (編入生は2年) で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上 (編入生は別途定める) を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

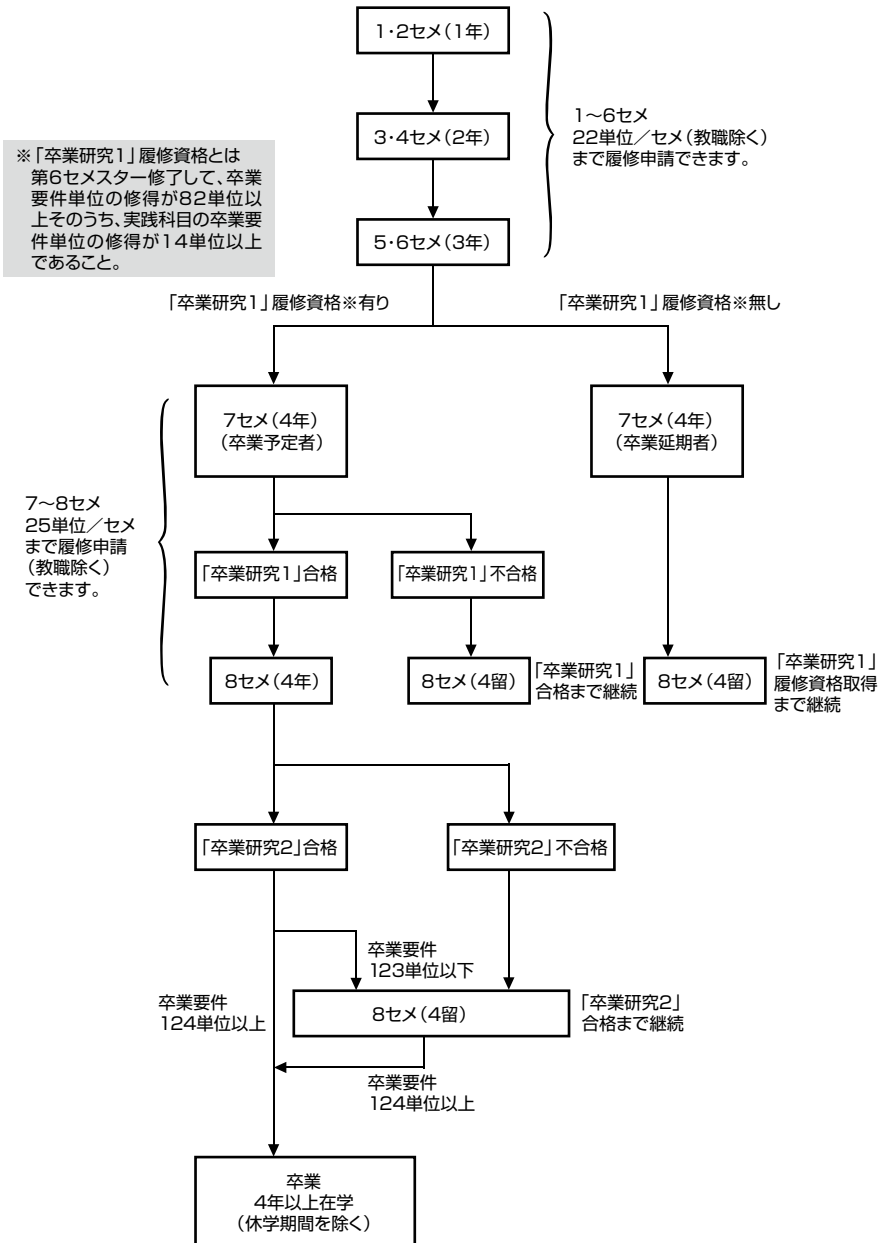
(1) 卒業要件単位数

基本 科目	人間環境の基礎	8単位以上		26 ~ 40 単位	124 単位	学士 (人間環境学)
	コミュニケーション英語	2単位以上 (留学生は要件なし。)				
	言語文化	8単位以上				
	現代社会と文化					
	身体基礎科学	(留学生に限り6単位を含む。)				
	日本事情	8単位 (留学生に限る。)				
日本語	4単位以上		48 単位 以上			
展 開 科 目	社会環境科目	生活環境コース4単位以上 住環境デザインコース14単位以上				
	環境計画科目	4単位以上				
	環境保全科目	4単位以上 (自由科目8単位を含む。)				
	学部共通科目	4単位		30 単位 以上		
実 践 科 目	基礎スキル演習	10単位				
	フィールド/スタジオ演習	8単位				
	設計演習					
	コンピュータ演習					
	生活環境学演習					
	ゼミナール					
	卒業研究	8単位以上				
4年以上在学						

- ・生活環境学科には「生活環境コース」と、住宅・建築関連の専門科目に特化した「住環境デザインコース」の2コースがあり、卒業要件単位数が一部異なります。
- ・住環境デザインコースは4セメスター終了時に申請を受け付け、5セメスターから卒業時まで配属されます。
- ・住環境デザインコース以外の学生は全員、5セメスターより生活環境コースに配属されます。(申請は不要です。)
- ・コース制度の詳細については、入学後の掲示・ガイダンスを参考にしてください。

(2) 進級の条件

— 進級および卒業までの流れ —



※人間環境学部は、休学中も在學生と同じくセメスターに上がります。

(3) 卒業要件単位の履修要件

【基本科目】 26～40単位

- ①必修科目（卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。）
「生活環境学概論」、「データ処理の基礎」、「コンピュータの基礎」、「コミュニケーション英語1～2」の計5科目8単位を必ず修得してください。
留学生は「生活環境学概論」、「データ処理の基礎」、「コンピュータの基礎」、「日本事情1～3」、「日本語1～4」、「上級日本語1～4」の計14科目20単位を必ず修得してください。
- ②選択必修科目（特定の科目群から指定された単位を修得します。）
必修科目以外に、人間環境の基礎分野から2単位、現代社会と文化分野と身体基礎科学分野から合わせて8単位、計10単位を修得してください。
留学生は、人間環境の基礎分野から2単位、現代社会と文化分野と身体基礎科学分野から合わせて2単位、計4単位を修得してください。
- ③選択科目（必修、選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）
①②以外に、8～22単位（留学生は2～16単位）を修得してください。選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。

【展開科目】 48単位以上

- ①選択必修科目（特定の科目群から指定された単位を修得します。）
社会環境科目分野から4単位、環境計画科目分野から生活環境コースは4単位・住環境デザインコース14単位、環境保全科目分野から4単位、学部共通科目分野から4単位、計、生活環境コースは16単位・住環境デザインコースは26単位を修得してください。
- ②選択科目（選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）
選択必修科目以外に、生活環境コースは32単位以上、住環境デザインコースは22単位以上を修得してください。選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。

【実践科目】 30単位以上

- ①必修科目（卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。）
生活環境コースは、「基礎スキル演習1・2」、「フィールドスタジオ演習1～4」、「コンピュータ基礎演習1・2」、「コンピュータ応用演習1・2」、「卒業研究1・2」の計12科目30単位を必ず修得してください。
住環境デザインコースは、「基礎スキル演習1・2」、「フィールドスタジオ演習1・2」、「住環境設計演習1・2」、「コンピュータ基礎演習1・2」、「コンピュータ応用演習1・2」、「卒業研究1・2」の計12科目30単位を必ず修得してください。

※基本科目（26～40単位）、展開科目（48単位以上）、実践科目（30単位以上）の最低要件単位は合計104～118単位です。卒業要件124単位に不足する20～6単位については、展開科目または実践科目の最低要件単位数を超えた単位で補ってください。

05. 卒業研究

(1) 「卒業研究1」、「卒業研究2」

「卒業研究1」、「卒業研究2」は必修科目です。(2)の条件を満たした場合、次年度より履修することができます。「卒業研究1」、「卒業研究2」は、原則同一教員とします。

(2) 「卒業研究1」、「卒業研究2」の履修資格

「卒業研究1」履修資格とは

第6セメスターを修了して、卒業要件単位の修得が82単位以上、そのうち実践科目の卒業要件単位の修得が14単位以上であること。

履修資格を満たすと次年度より「卒業研究1」を履修することができます。

「卒業研究2」を履修するためには、「卒業研究1」を修得していなければなりません。

06. 卒業見込証明書

在学期間が3年以上で、「卒業研究1」の履修資格を有する者または既修得者は、4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、13号館1階)を利用してください。

07. 資格取得

本学を卒業、または特定の科目を修得することによって得られる(あるいは取得の要件の1つとなる)資格・免許を一覧表にしましたので、履修コースや履修科目選択の参考にしてください。また、他にも卒業後の実務経験で得られる資格(要申請)、実務経験により受験資格が得られる資格、受験科目の一部が免除される資格など多数あります。それら資格(免許)の職務内容や取得方法に関しては、教育支援センター(5号館1階)で相談してください。

(1) 教員免許状

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(公民)	文化コミュニケーション学科 生活環境学科	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得。詳細は教職ガイダンスで説明します。
中学校教諭一種免許状(社会)		
高等学校教諭一種免許状(保健体育)	スポーツ健康学科	
中学校教諭一種免許状(保健体育)		

(2) 学科別認定資格

資格の種類	認定の内容	対象学部	取得の要件
社会教育主事	1年以上社会教育主事補の職につけば、任用資格が与えられます。	人間環境学部	大学に2年以上在学して62単位以上修得し、資格取得のために特に定められた科目を修得した者。

(3) 特定科目修了により取得できる資格

資格の種類	認定の内容	対象学部(学科)	取得の要件
社会福祉主事	任用資格が与えられます。	全学部	・卒業 ・資格取得のためには特に定められた科目を修得してください。
2級ビオトープ計画管理士 2級ビオトープ施工管理士	筆記試験一部免除	生活環境学科	特定科目の修得
環境再生医(初級)	資格が与えられます。		認定校として定められた科目を修得した者。在学中に申請することが必要です。
2級建築士	卒業後実務経験3年を経て受験資格が得られます。		住環境デザインコースを選択し、所定の科目の単位を修得する必要があります。

(4) 本学で実施する資格取得試験など

資格の種類	対象学部	取得の要件・その他
ボランティア・NPO講座	人間環境学部	本学独自の講座で、卒業後、NPO活動、NGOの進路が開けます。講義科目(2科目)、演習科目(2科目)、ボランティア・インターンシップ(夏期集中)の5科目から構成されています。

(5) 人間環境学部推薦資格

資格の種類	対象学部	取得の要件・その他
福祉住環境コーディネーター	全学部	年2回、各商工会議所で実施されます。
環境管理士		クリーンな社会の建設を目指し、市民生活、企業、自治体における環境管理のスペシャリストの資格。原則として通信講座を受講し修了試験などの資格審査に合格すると免許登録できます。
公害防止管理者		年1回実施されています。水質関係公害防止管理者の資格について、人間環境学部にて支援授業科目があります。
環境社会検定 (eco検定)		7月、12月の年2回、実施されています。学校受検によるテキスト代の補助制度があります。幅広い知識をもって社会で率先して環境問題に取り組む“エコ・ビープル”として評価されます。
ネイチャーゲームリーダー		年1回、本学で開催されるリーダー養成講座(2日間、実技含む)に参加します。
ビオトープ管理士		本学部は一部試験免除認定校(財団法人日本生態系協会認定)。本学科が指定する科目取得によって試験の一部が免除され、最終的には試験合格によって取得できます(詳細はオリエンテーション時に資料配付)。
ITパスポート		随時実施されています。
基本情報技術者		春と秋の年2回、実施されています。

(6) 支援授業科目

① 公害防止管理者

試験内容

- ・水質関係1種～4種公害防止管理者
公害総論、水質概論、汚水処理特論、水質有害物質特論、大規模水質特論

支援授業科目一覧

環境法、水環境論、環境制御・計測論、ゼミナール、生活環境学演習

② ITパスポート・基本情報技術者

試験内容

コンピュータ科学基礎、コンピュータシステム、システムの開発と運用、ネットワーク技術、データベース技術、セキュリティと標準化

支援授業科目一覧

コンピュータの基礎、コンピュータ基礎演習1、コンピュータ基礎演習2、コンピュータ応用演習1、コンピュータ応用演習2、特別講義B

08. カリキュラム

(1) 基本科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				1セメ'2セメ' (前)'(後)	3セメ'4セメ' (前)'(後)	5セメ'6セメ' (前)'(後)	7セメ'8セメ' (前)'(後)	
基 本 科 目	人間環境学概論	2	8 (必修を含む)以上 26 ~ 40 124	2				※□ ※□
	文化環境学概論	2		2				
	身体環境学概論	2		2				
	生活環境学概論	②		2				
	経済学の基礎	2		2				
	社会学の基礎	2		2				
	歴史学の基礎	2		2				
	健康管理の基礎	2		2				
	心理学の基礎	2		2				
	体育学の基礎	2		2				
	身体科学の基礎	2		2				
	データ処理の基礎	②		2				
	化学の基礎	2		2				
	生物学の基礎	2		2				
	コンピュータの基礎	②		2				
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語	コミュニケーション英語1		①	2 (必修を含む)以上	2		
コミュニケーション英語2		①	2					
コミュニケーション英語3		1		2				
コミュニケーション英語4		1				2		
アドヴァンスト英語1		2	2					
アドヴァンスト英語2		2	2					
英語海外研修		2		2		2		

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次には1年次の、2年次には1、2年次の、3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

注) 時間セメスターが異なる場合は時間割を優先。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セメ,2セメ (前) (後)	3セメ,4セメ (前) (後)	5セメ,6セメ (前) (後)	7セメ,8セメ (前) (後)		
基 本 科 目	言 語 文 化	ドイツ語 1	2	(2)(必修を含む) (以上) (26~40) (124)	4				集中
		ドイツ語 2	2		4				
		ドイツ語 3	2			4			
		ドイツ語 4	2				4		
		ドイツ語海外研修	2			2	2		
		中国語 1	2		4				
		中国語 2	2		4				
		中国語 3	2			4			
		中国語 4	2				4		
		中国語海外研修	2			2	2		
		朝鮮語 1	2		4				
		朝鮮語 2	2		4				
		朝鮮語 3	2			4			
		朝鮮語 4	2				4		
		朝鮮語海外研修	2			2	2		

(2) 展開科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時間 数				備 考		
			生活環境	住環境デザイン		1年次	2年次	3年次	4年次			
						1セメ, 2セメ (前);(後)	3セメ, 4セメ (前);(後)	5セメ, 6セメ (前);(後)	7セメ, 8セメ (前);(後)			
展 開 科 目	社会環境科目	生活環境科学	2		4 以上		2					
		公共投資論	2				2					
		環境リスク論	2					2				
		市民と環境ガバナンス	2						2			
		廃棄物概論	2							2		
		持続可能な社会	2								2	
		環境アセスメント	2							2		
		環境マネジメント論	2								2	
		環境政策論	2							2		
		エコビジネス論	2								2	
	社会調査の手法	2						2				
	環境計画科目	建築の企画と法規	2	○	生活環境コースは14(必修を含む)以上 48以上 (124)					2		
		環境と交通	2						2			
		室内環境論	2	○				2				
		コミュニティとまちづくり	2						2			
		都市と建築のデザイン	2	○						2		
		住まいの設備と材料	2	○				2				
		住居計画論	2	○				2				
		住居一般構造	2	○						2		
		建築構造力学	2	○					2			
		環境情報分析の手法	2					2				
	環境保全科目	都市計画論	2							2		
		大気環境論	2				2					
		水環境論	2				2					
		資源とエネルギー	2					2				
		環境と国際協力	2						2			
		環境制御・計測論	2							2		
		地球環境学	2			4 以上		2				
		自然と人の共生	2					2				
		植生と生態系保全	2						2			
		流域環境と生物	2					2				
		食農環境論	2							2		
自然再生計画論		2					2					
自然再生施工論	2						2					

区分	科目	単位	履修コース 住環境デザイン 生活環境	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考	
					1年次	2年次	3年次	4年次		
					1セ×2セ×(前) (後)	3セ×4セ×(前) (後)	5セ×6セ×(前) (後)	7セ×8セ×(前) (後)		
展 開 科 目	文化と環境	環境倫理	2			2			※イ	
		環境教育論	2			2				
		都市地理学	2				2			
		都市の歴史	2				2			
		観光論	2				2			
		環境心理学	2				2			
		学習心理学	2				2			
		ボランティアマネジメント論	2				2			※イ・ハ
		生命史	2				2			
		経済社会と環境	文化社会学	2						2
	環境社会学		2			2				
	環境法		2					2		
	環境経済学		2				2			
	情報倫理		2				2			
	社会福祉論		2					2		
	生涯学習論		2				2			
	生涯学習特論		2					2		
	社会教育計画1		2					2		
	社会教育計画2		2					2		
	キャリア教育	社会教育課題研究1	2					2	※イ ※イ ※イ ※イ	
社会教育課題研究2		2					2			
特別講義 A		2					2			
特別講義 B		2					2			
小 計		114		48以上		0 0	26 38	28 22	0 0	

4以上
(48以上)
(124)

(3) 実践科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時間 数				備 考		
			生活環境	住環境デザイン		1年次	2年次	3年次	4年次			
						1セメ、2セメ (前) ; (後)	3セメ、4セメ (前) ; (後)	5セメ、6セメ (前) ; (後)	7セメ、8セメ (前) ; (後)			
実践科目	基礎スキル 演習	基礎スキル演習1	2	○	○	4						
		基礎スキル演習2	2	○	○		4					
	フィールド スタジオ 演習	フィールドスタジオ演習1	2	○	○			4				
		フィールドスタジオ演習2	2	○	○				4			
		フィールドスタジオ演習3	3	○	—	10				6		
		フィールドスタジオ演習4	3	○	—						6	
	環境 設計 演習	住環境設計演習1	3	—	○					6		
		住環境設計演習2	3	—	○						6	
	コン ピュー ター 演習	コンピュータ基礎演習1	2	○	○	8	4					
		コンピュータ基礎演習2	2	○	○			4				
		コンピュータ応用演習1	2	○	○	30以上 (124)			4			
		コンピュータ応用演習2	2	○	○					4		
	生活 環境 学 演習	生活環境学演習1	2					2				
		生活環境学演習2	2						2			
	ゼミ ナール	ゼミナール1	1				2					
ゼミナール2		1				2						
卒 業 研 究	ブレ卒研1	1			8以上				2			
	ブレ卒研2	1								2		
	卒業研究1	4	○	○						8 ; (8)	論文指導(集中)2単位を含む	
	卒業研究2	4	○	○						(8) ; 8	論文指導(集中)2単位を含む	
小 計		44			30以上	10 ; 10	10 ; 10	14 ; 14	8 ; 8			
基本科目、展開科目、実践科目合計		282			124	56 ; 70	76 ; 74	42 ; 34	8 ; 8			

注) 履修要件および資格支援科目について

- イ 別に定める教職関連科目に係わる授業科目のうち、「教育哲学」、「教育心理学」、「道徳教育の理論と方法」および「人権教育」の各科目は、履修し修得した単位を、基本科目区分の現代社会と文化分野の卒業要件単位の組み合わせることができる。
- ロ 留学生の基本科目区分の履修要件については、次のとおりとする。
- (1) コミュニケーション英語分野については、すべての科目を選択科目として取り扱い、卒業要件最低単位の条件を除外する。
 - (2) 言語文化分野については、すべての科目を選択科目として取り扱い、卒業要件最低単位の条件を除外する。
ただし、母語を履修することができない。
 - (3) 日本事情分野については、すべての科目を必修科目とし、現代社会と文化分野および身体基礎科学分野を含めて、8単位以上を卒業要件最低単位とする。
 - (4) 日本語分野については、すべての科目を必修科目として取り扱う。
- ハ 資格支援科目に係わる備考欄中の表記は、次のとおりとする。
- (1) ※イは、別に定める「社会教育主事」の資格取得に係わる科目
 - (2) ※ロは、別に定める「社会福祉主事」の資格取得に係わる科目
 - (3) ※ハは、別に定める「ボランティア・NPO講座」に係わる科目

【資格取得に係わる科目】

イ. 社会教育主事

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

社会教育主事となる資格を得ようとする者は、社会教育法第9条の4に定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最 低 修 得 単 位 数	週 時 間 数				備 考	
			1年次	2年次	3年次	4年次		
			1セメ、2セメ (前)、(後)	3セメ、4セメ (前)、(後)	5セメ、6セメ (前)、(後)	7セメ、8セメ (前)、(後)		
生涯学習論	②	24		2			※〇〇	
生涯学習特論	②			2			※〇〇	
社会教育計画1	②			2			※〇〇	
社会教育計画2	②			2			※〇〇	
社会教育課題研究1	②			2			※〇〇	
社会教育課題研究2	②			2			※〇〇	
社会教育特講I (現代社会と社会教育)	環境教育論		2			2		※〇△
	社会福祉論		2			2		※〇〇
	ジェンダー論		2		2			※〇〇
	人権教育		2		2			※〇〇
社会教育特講II (社会教育活動・事業・施設)	道徳教育の理論と方法		2		2			※〇〇
	ボランティアマネジメント論		2		2			※〇〇
	社会とボランティア	2	2				※〇〇	
社会教育特講III (その他必要な科目)	ボランティア・インターンシップ	2		2			※〇〇(集中)	
	宗教と人間	2	2				※〇〇	
	コミュニケーション論	2		2			※□△	
	文化社会学	2			2		※〇△	
	比較社会論	2		2			※□△	
	教育心理学	2	2				※〇〇	
	教育哲学	2		2			※〇〇	
	教育方法論	2		2				
合 計	42	24	4、6	10、12	8、2	0、0		

注)1.履修方法について

イ 単位数を○でかこんだ12単位を、必修科目とする。

ロ 選択科目を12単位とし、科目分野の社会教育特講I、社会教育特講IIおよび社会教育特講IIIの各分野にわたって履修することが望ましい。

2.備考欄中の※印は、文化コミュニケーション学科の卒業要件単位に算入される科目

3.備考欄中の○印は、生活環境学科の卒業要件単位に算入される科目

4.備考欄中の◎印は、スポーツ健康学科の卒業要件単位に算入される科目

5.備考欄中の□印は、生活環境学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

6.備考欄中の△印は、スポーツ健康学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

ロ. 社会福祉主事

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

社会福祉主事となる資格を得ようとする者は、社会福祉法第19条の定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最低修得単位数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セメ 2セメ (前) (後)	3セメ 4セメ (前) (後)	5セメ 6セメ (前) (後)	7セメ 8セメ (前) (後)					
社 会 福 祉 論	2	6			2		※○○				
精 神 医 学	2				2		※□○				
経 済 学 の 基 礎	2			2			※○○				
心 理 学 概 論	2			2			※○○				
社 会 学 の 基 礎	2			2			※○○				
医 学 一 般	2			2			※□○				
公 衆 衛 生 学	2			2		△□○					
合 計	14	6	0	6	2	0	6	0	0	0	

注) 1.履修については、3科目6単位を修得すること。

2.備考欄中の※印は、文化コミュニケーション学科の卒業要件単位に算入される科目

3.備考欄中の○印は、生活環境学科の卒業要件単位に算入される科目

4.備考欄中の□印は、スポーツ健康学科の卒業要件単位に算入される科目

5.備考欄中の△印は、文化コミュニケーション学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

6.備考欄中の□印は、生活環境学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

ハ. ボランティア・NPO講座

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

授 業 科 目	単 位	最低修得単位数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セメ 2セメ (前) (後)	3セメ 4セメ (前) (後)	5セメ 6セメ (前) (後)	7セメ 8セメ (前) (後)					
社 会 と ボ ラ ン テ ィ ア	2	10	2				※				
ボ ラ ン テ ィ ア マ ネ ジ メ ン ト 論	2			2			※				
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 支 援 演 習 1	2			2			※(集中)				
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 支 援 演 習 2	2			2			※(集中)				
ボ ラ ン テ ィ ア ・ イ ン タ ー ン シ ッ プ	2			2			※(集中)				
合 計	10	10	2	0	4	4	0	0	0	0	

注) 備考欄中の※印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目

Chapter

02

STUDY PLAN-12V
編入生

01.カリキュラムの概要	045
02.履修制限	046
03.卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	046
04.卒業研究	049
05.卒業見込証明書	049
06.カリキュラム	050

01. カリキュラムの概要

(1) カリキュラムの構成

生活環境学科の科目群には、基本科目、展開科目、実践科目の3つのグループがあります。また、各グループには必修科目が設けられています。編入生の皆さんは基本科目から4単位（留学生は8単位）以上、展開科目から32単位以上、実践科目から22単位以上、計62単位を修得する必要があります。

以下に、それぞれの概要を説明します。

(2) 基本科目（4単位以上（留学生は8単位以上））

基本科目には、「人間環境の基礎」と「日本語」の科目分野があります。

① 人間環境の基礎（4単位以上）

編入生の皆さんは、必修科目「生活環境学概論」を含めて4単位以上を修得しなければなりません。

② 日本語（留学生のみ必修）（4単位）

編入生の留学生の皆さんは、「上級日本語1～4」の4科目を修得しなければなりません。

(3) 展開科目（32単位以上）

展開科目とは、人間環境や生活環境などの多様な領域に関する専門知識を習得する科目で、社会環境科目、環境計画科目、環境保全科目、学部共通科目分野から各々4単位以上、計32単位以上を修得してください。

(4) 実践科目（22単位以上）

① フィールド／スタジオ演習（10単位）

編入生は「フィールドスタジオ演習1、2、3、4」を必ず履修して下さい。これらはテーマ別に少人数に分かれて実施する演習スタイルをとっており、講義で学んだ環境に関わるさまざまな知識について、調査や分析、提案などの実践を通じて確認していきます。いずれも初回にテーマ説明とクラス分けを実施しますので、欠席しないように特に注意してください。

② コンピュータ演習（4単位）

編入生は「コンピュータ応用演習1・2」を必ず履修してください。この科目では実際にコンピュータを使って、授業のレポート作成や研究に用いる基本的なアプリケーション等を使いこなせるよう練習します。希望者についてはプログラミングの技術を修得するクラスも設けられていますので、クラス分け実施時に申し出てください。

③ 卒業研究（8単位以上）

第7、8セメスターにわたって、同一の教員の指導のもとで、生活環境学科における学習の総仕上げを行います。6セメスター中に研究室配属がおこなわれますので、連絡に注意するようにして下さい。なお、卒業研究に着手するためには、第6セメ修了時の修得単位数が一定の条件を満たしている必要がありますので、注意が必要です。

02. 履修制限

生活環境学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

12V編入生に適用

各セメで履修できる単位数	5～6セメ	最大22単位/セメ(教職を除く):年間44単位
	7～8セメ	最大25単位/セメ(教職を除く):年間48単位
学年(セメスター)による科目の制限	5セメ:1～5セメ配当科目から履修することができます。 6セメ:1～6セメ配当科目から履修することができます。 7セメ:1～7セメ配当科目から履修することができます。 8セメ:全ての科目から履修することができます。 ※ただし、前・後期によって開講していない科目、制限のある科目は履修することができません。	
その他	既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。	

03. 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

(1) 卒業要件単位数

卒業するためには、以下の要領で基本科目4単位(留学生は8単位)以上、展開科目32単位以上、実践科目22単位以上、計62単位を修得しなければなりません。

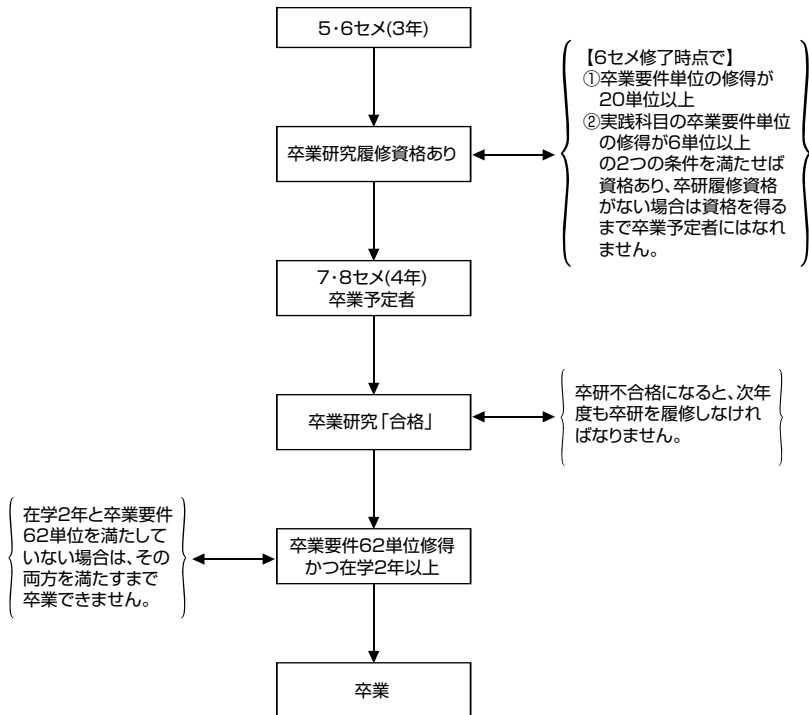
基本科目	人間環境の基礎	「生活環境学概論」必修	4単位以上	4単位 (留学生 8単位)以上	62 単位	学士(人間環境学)
	日本語	「上級日本語1・2・3・4」必修	4単位 (留学生のみ)			
展開科目	社会環境科目		4単位以上	32単位以上		
	環境計画科目		4単位以上			
	環境保全科目		4単位以上			
	学部共通科目(自由科目4単位を含む)		4単位以上			
実践科目	フィールド/スタジオ演習	「フィールドスタジオ演習1・2・3・4」必修	10単位	22単位以上		
	コンピュータ演習	「コンピュータ応用演習1・2」必修	4単位			
	生活環境学演習					
	ゼミナール					
	卒業研究	「卒業研究1・2」必修	8単位以上			

(2) 進級の条件

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、6セメ修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

なお、5～6セメは最大22単位／セメ（教職を除く）、7～8セメは最大25単位／セメ（教職を除く）の履修制限がありますので、計画的に修学してください。

—進級および卒業までの流れ—



(3) 卒業要件単位の履修要件 (62単位)**【基本科目】4単位 (留学生は8単位) 以上**

必修科目:以下の2科目4単位 (留学生は6科目8単位) を必ず修得してください。

区 分	科 目 名	単位数
人間環境の基礎	生活環境学概論	2
日 本 語 ※留学生のみ	上級日本語1	1
	上級日本語2	1
	上級日本語3	1
	上級日本語4	1

【展開科目】32単位以上

- ・選択必修科目:社会環境科目、環境計画科目、環境保全科目および学部共通科目分野から各々4単位、計16単位を修得してください。
- ・選択科目:選択必修科目以外に、展開科目の各分野から合わせて16単位を修得してください。

【実践科目】22単位以上

必修科目:以下の8科目22単位を必ず修得してください。

区 分	科 目 名	単位数
フィールド/スタジオ演習	フィールドスタジオ演習1	2
	フィールドスタジオ演習2	2
	フィールドスタジオ演習3	3
	フィールドスタジオ演習4	3
コンピュータ演習	コンピュータ応用演習1	2
	コンピュータ応用演習2	2
卒 業 研 究	卒業研究1	4
	卒業研究2	4

04. 卒業研究

(1) 「卒業研究1」、「卒業研究2」

卒業するためには、「卒業研究1」、「卒業研究2」を修得しなければなりません。第7セメスター（第4年次の前期）以降、「卒業研究1」、「卒業研究2」を履修するためには、第6セメスター（3年次の後期）修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究1」、「卒業研究2」の履修についての質問や相談がある場合には、教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

また、3年次に「ブレ卒研1」、「ブレ卒研2」希望する学生に対して、各教員の研究室への仮配属を行なっています。研究テーマや配属希望の研究室を決めている場合、または、各研究室のゼミに3年次から参加したい場合は、ガイダンスに参加し配属希望を出してください。

(2) 「卒業研究1」、「卒業研究2」の履修資格

①「卒業研究1」（7セメ）を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

【6セメ修了時点】

1) 卒業要件単位の修得が20単位以上。

2) 実践科目の卒業要件単位の修得が6単位以上。

②「卒業研究2」を履修するためには、「卒業研究1」を修得しておかなければなりません。

③「卒業研究1」、「卒業研究2」は、原則同一教員で履修します。

05. 卒業見込証明書

在学期間が1年以上で、「卒業研究1」の履修資格を有する者または既修得者は、4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機（本館1階、13号館1階）を利用してください。

06. カリキュラム

(1) 基本科目

注) 編入生の卒業要件単位は62単位です。
(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時間 数				備 考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セメ ¹ 2セメ ² (前) ¹ (後) ²	3セメ ³ 4セメ ⁴ (前) ³ (後) ⁴	5セメ ⁵ 6セメ ⁶ (前) ⁵ (後) ⁶	7セメ ⁷ 8セメ ⁸ (前) ⁷ (後) ⁸		
基本 科目	人間環境学概論	2	4 以上 4 以上 (留 学生 8 以上)	2					
	文化環境学概論	2		2					
	身体環境学概論	2		2					
	生活環境学概論	2		2					
	経済学の基礎	2		2				※○	
	社会学の基礎	2		2				※○	
	歴史学の基礎	2		2					
	健康管理の基礎	2		2					
	心理学の基礎	2		2					
	体育学の基礎	2		2					
	身体科学の基礎	2		2					
	データ処理の基礎	2		2					
	化学の基礎	2		2					
	生物学の基礎	2		2					
	コンピュータの基礎	2	2						
	コ ミュ ニ ケー ション 英 語	コミュニケーション英語1	—	—	2				留学生は選択科目
		コミュニケーション英語2	—		2				留学生は選択科目
		コミュニケーション英語3	—			2			
コミュニケーション英語4		—				2			
アドヴァンスト英語1		—	2						
アドヴァンスト英語2		—	2						
英語海外研修		—			2	2			集中

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次には1年次の、2年次には1、2年次の、3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

注) 時間セメスターが異なる場合は時間割を優先。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セメ、2セメ (前) (後)	3セメ、4セメ (前) (後)	5セメ、6セメ (前) (後)	7セメ、8セメ (前) (後)		
基 本 科 目	言 語 文 化	ドイツ語 1	-	4 以上 (留 学 生 8 以 上)	4				集中
		ドイツ語 2	-		4				
		ドイツ語 3	-			4			
		ドイツ語 4	-				4		
		ドイツ語海外研修	-			2	2		
		中国語 1	-		4				
		中国語 2	-		4				
		中国語 3	-			4			
		中国語 4	-				4		
		中国語海外研修	-			2	2		
		朝鮮語 1	-		4				
		朝鮮語 2	-		4				
		朝鮮語 3	-			4			
		朝鮮語 4	-				4		
		朝鮮語海外研修	-			2	2		

12
V

12
V

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セム(前) 2セム(後)	3セム(前) 4セム(後)	5セム(前) 6セム(後)	7セム(前) 8セム(後)		
基 本 科 目	現代社会と文化	環境思想史	—	2				※イ	
		日本文化史	—	2					
		平和学	—	2					
		宗教と人間	—	2					
		日本と西洋	—	2					
		日本と中国	—	2					
		日本と韓国・朝鮮	—	2					
		日本国憲法	—	2					
		世界の政治	—	2					
		文化人類学	—	2					
		都市と農村	—	2					
		民族とマイノリティ	—		2				
		ジェンダー論	—		2				※イ
		心理学概論	—		2				※ロ
		スポーツの歴史	—		2				
		社会とボランティア	—	2					※イ・ハ
	ボランティア活動支援演習1	—		2			集中／※ハ		
	ボランティア活動支援演習2	—			2		集中／※ハ		
	ボランティア・インターンシップ	—			2		集中／※イ・ハ		
	基礎科学	スポーツ科学実習1	—		2				
		スポーツ科学実習2	—		2				
	日本事情	日本事情1	—		2			留学生向け科目	
		日本事情2	—		2			留学生向け科目	
		日本事情3	—			2		留学生向け科目	
	日本語	日本語1	—		2			留学生向け科目	
		日本語2	—		2			留学生向け科目	
		日本語3	—			2		留学生向け科目	
		日本語4	—			2		留学生向け科目	
上級日本語1		①			2		留学生向け科目		
上級日本語2		①				2	留学生向け科目		
上級日本語3		①				2	留学生向け科目		
上級日本語4		①				2	留学生向け科目		
小 計		4(留学生8)以上	46,60	36,28	0,0	0,0			

(2) 展開科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時間 数				備 考				
				1年次	2年次	3年次	4年次					
				1セメ(前) 2セメ(後)	3セメ(前) 4セメ(後)	5セメ(前) 6セメ(後)	7セメ(前) 8セメ(後)					
展 開 科 目	社会環境科目	生活環境科学	2	4以上	32以上	62		2				
		公共投資論	2					2				
		環境リスク論	2					2				
		市民と環境ガバナンス	2					2				
		廃棄物概論	2					2				
		持続可能な社会	2					2				
		環境アセスメント	2					2				
		環境マネジメント論	2					2				
		環境政策論	2					2				
		エコビジネス論	2					2				
		社会調査の手法	2					2				
	環境計画科目	建築の企画と法規	2	4以上					2			
		環境と交通	2					2				
		室内環境論	2					2				
		コミュニティとまちづくり	2					2				
		都市と建築のデザイン	2					2				
		住まいの設備と材料	2					2				
		住居計画論	2					2				
		住居一般構造	2					2				
		建築構造力学	2					2				
		環境情報分析の手法	2					2				
		都市計画論	2					2				
	環境保全科目	大気環境論	2	4以上				2				
		水環境論	2					2				
		資源とエネルギー	2					2				
		環境と国際協力	2					2				
		環境制御・計測論	2					2				
		地球環境学	2					2				
		自然と人の共生	2					2				
		植生と生態系保全	2					2				
		流域環境と生物	2					2				
		食農環境論	2					2				
自然再生計画論	2		2									
自然再生施工論	2		2									

12
V

12
V

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セ×2セ× (前) (後)	3セ×4セ× (前) (後)	5セ×6セ× (前) (後)	7セ×8セ× (前) (後)		
展 開 科 目	文化と環境	環境倫理	2		2			※イ	
		環境教育論	2		2				
		都市地理学	2			2			
		都市の歴史	2		2				
		観光論	2			2			
		環境心理学	2			2			
		学習心理学	2		2				
		ボランティアマネジメント論	2		2				※イ・ハ
		生命史	2		2				
		文化社会学	2			2			※イ
	経済社会と環境	環境社会学	2	4以上	2			※イ・ロ 教職課程科目/ ※イ	
		環境法	2	32以上		2			
		環境経済学	2		2				
		情報倫理	2		2				
		社会福祉論	2			2			
		生涯学習論	2		2				
		生涯学習特論	2		2				
		社会教育計画1	2		2				
		社会教育計画2	2		2				
		社会教育課題研究1	2		2				
社会教育課題研究2	2		2						
キャリア教育	特別講義 A	2		2			※イ		
	特別講義 B	2		2			※イ		
小 計			32以上						

(3) 実践科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考				
				1年次	2年次	3年次	4年次					
				1セ×(前) 2セ×(後)	3セ×(前) 4セ×(後)	5セ×(前) 6セ×(後)	7セ×(前) 8セ×(後)					
実践科目	基礎スキル演習	基礎スキル演習1	1	22以上	4							
		基礎スキル演習2	1		4							
	スタジオ演習 (フィールド)	フィールドスタジオ演習1	②		10		4					
		フィールドスタジオ演習2	②					4				
		フィールドスタジオ演習3	③						6			
		フィールドスタジオ演習4	③							6		
	演習設計	住環境設計演習1	3		4			6				
		住環境設計演習2	3						6			
	演習 コンピュータ	コンピュータ基礎演習1	1		4	4						
		コンピュータ基礎演習2	1			4						
		コンピュータ応用演習1	②				4					
		コンピュータ応用演習2	②					4				
	演習生活 環境学	生活環境学演習1	2		4		2					
		生活環境学演習2	2					2				
	ゼミ ナール	ゼミナール1	1		4	2						
		ゼミナール2	1			2						
	卒業 研究	ブレ卒研1	1		8以上			2				
		ブレ卒研2	1						2			
		卒業研究1	④							8	(8)	論文指導(集中)2単位を含む
		卒業研究2	④							(8)	8	論文指導(集中)2単位を含む
小 計			22以上									
基本科目、展開科目、実践科目合計			62									

12
V

【資格取得に係わる科目】

イ. 社会教育主事

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

社会教育主事となる資格を得ようとする者は、社会教育法第9条の4に定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最低修得単位数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セ×,2セ× (前), (後)	3セ×,4セ× (前), (後)	5セ×,6セ× (前), (後)	7セ×,8セ× (前), (後)					
生涯学習論	②	12		2			※○○				
生涯学習特論	②			2			※○○				
社会教育計画1	②			2			※○○				
社会教育計画2	②			2			※○○				
社会教育課題研究1	②			2			※○○				
社会教育課題研究2	②			2			※○○				
社会教育特講I (現代社会と社会教育)	環境教育論		2			2		※○△			
	社会福祉論		2			2		※○○			
	ジェンダー論		2		2			※○○			
	人権教育 道徳教育の理論と方法		2		2			※○○			
社会教育特講II (社会教育活動・ 事業・施設)	ボランティアマネジメント論		2		2			※○○			
	社会とボランティア		2	2				※○○			
	ボランティア・インターンシップ	2		2			※○○(集中)				
社会教育特講III (その他必要な科目)	宗教と人間	2		2			※○○				
	コミュニケーション論	2			2		※□△				
	文化社会学	2			2		※○△				
	比較社会学	2			2		※□△				
	教育心理学	2	2				※○○				
	教育哲学	2		2			※○○				
教育方法論	2		2								
合 計	42	24	4	6	10	12	8	2	0	0	

注)1.履修方法について

イ 単位数を○でかこんだ12単位を、必修科目とする。

ロ 選択科目を12単位とし、科目分野の社会教育特講I、社会教育特講IIおよび社会教育特講IIIの各分野にわたって履修することが望ましい。

2.備考欄中の※印は、文化コミュニケーション学科の卒業要件単位に算入される科目

3.備考欄中の○印は、生活環境学科の卒業要件単位に算入される科目

4.備考欄中の◎印は、スポーツ健康学科の卒業要件単位に算入される科目

5.備考欄中の□印は、生活環境学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

6.備考欄中の△印は、スポーツ健康学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

ロ. 社会福祉主事

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

社会福祉主事となる資格を得ようとする者は、社会福祉法第19条の定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授業科目	単 位	最低 修得 単 位 数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セメ'2セメ (前) (後)	3セメ'4セメ (前) (後)	5セメ'6セメ (前) (後)	7セメ'8セメ (前) (後)					
社会福祉論	2	6			2		※○○				
精神医学	2				2		※□○				
経済学の基礎	2			2			※○○				
心理学概論	2			2			※○○				
社会学の基礎	2			2			※○○				
医学一般	2			2			※□○				
公衆衛生学	2				2		△□○				
合計	14	6	0	6	2	0	6	0	0	0	

注) 1.履修については、3科目6単位を修得すること。

2.備考欄中の※印は、文化コミュニケーション学科の卒業要件単位に算入される科目

3.備考欄中の○印は、生活環境学科の卒業要件単位に算入される科目

4.備考欄中の◎印は、スポーツ健康学科の卒業要件単位に算入される科目

5.備考欄中の△印は、文化コミュニケーション学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

6.備考欄中の□印は、生活環境学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

ハ. ボランティア・NPO講座

(人間環境学部 文化コミュニケーション学科・生活環境学科・スポーツ健康学科)

授業科目	単 位	最低 修得 単 位 数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セメ'2セメ (前) (後)	3セメ'4セメ (前) (後)	5セメ'6セメ (前) (後)	7セメ'8セメ (前) (後)					
社会とボランティア	2	10	2				※				
ボランティアマネジメント論	2			2			※				
ボランティア活動支援演習1	2			2			※(集中)				
ボランティア活動支援演習2	2			2			※(集中)				
ボランティア・インターンシップ	2			2			※(集中)				
合計	10	10	2	0	4	4	0	0	0	0	

注) 備考欄中の※印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目